

平成29年度 学生による地域活性化プログラム

「まちの駅」をフィールドとした 活動等による地域活性化への貢献



鯉江康正ゼミナール
活動報告書

03

平成29年度

ごあいさつ



長岡大学 学長 村山 光博

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」は、平成19年度に文部科学省の現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)に採択された「学生による地域活性化提案プログラム—政策対応型専門人材の育成—」に始まり、平成25年度からは文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)に採択された「長岡地域<創造人材>養成プログラム」の一環として、発展・継続して取り組んで参りました。現在では、本学の特徴的な教育プログラムとして周辺地域における認知度も高まってきていると実感しております。これまで11年の長きにわたりこの取り組みを続けて来られたのは、地域の皆様の暖かいご支援とご指導の賜物と、心より御礼申し上げます。この取り組みが十分に地域の活性化に貢献しているとは言えませんが、これまで本プログラムの運営に多大なご協力をいただいていた地域連携アドバイザーの方々だけでなく、たくさんの地域の方々から個々の取り組みテーマに対するお問い合わせや称賛の声をいただいております。また、最近では取り組みの中心となる学生の活動に関して、新聞やテレビなどのマスメディアでも大きく取り上げていただくことが多くなりました。

長岡大学の建学の精神は、

- ・幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進
- ・地域社会に貢献し得る人材の育成

です。本プログラムは、まさにこの精神を実現するための本学の中核となる教育プログラムであると言えます。

「地域活性化とは何か」という問いに対する明確な答えは無いと思いますが、本プログラムでは、答えの無い課題に対して、どのように考え、どのように行動して行くのかを学生が自ら試行錯誤する中で体得していくことができます。大学を卒業して地域社会の一員となる学生たちが、将来、地域が抱える課題に日々取り組んでいくことになると考えると、彼らにとってこれらの体験は大変貴重なものとなることでしょう。

本プログラムでは、各ゼミナールでテーマを設定し、ゼミに所属する学生のグループが活動を進めて行くこととなりますが、時には一緒に活動する地域の大人たちとの意見の食い違いや、学生同士のちょっとしたすれ違い等が起きることもあります。このような体験も学生がさらに一歩成長するきっかけとなります。ゼミで決めたテーマをまとめ上げるために、どのように他者とかかわりながら取り組みを進めて行くべきなのか、この取り組みの中で自分の役割は何であるのか、などを考えながら活動を行っていくことで、チームで活動することの難しさだけでなく、チームで何かをやり遂げたことの充実感や達成感を味わうことができます。

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」では、学生が地域の皆様と一緒に汗をかき、考え、そして楽しむことで、目先の地域貢献活動だけでなく、将来にわたって地域の活性化を担っていける人材の育成を目指しております。

地域の皆様には、日頃より本プログラムへの多大なるご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

平成30年3月



長岡大学は、文部科学大臣の認証を受けた『公益財団法人日本高等教育評価機構』により、平成28年度大学機関別認証評価を受審し、平成29年3月7日、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしていると「認定」されました。

はじめに

「まちの駅」をフィールドとした活動等による 地域活性化への貢献



長岡大学教授／ゼミ担当教員 鯉江 康正

本年度のゼミは、4年生15名、3年生9名、2年生1名の25名という大所帯でのスタートとなった。また、本年度は、越路地域のまちの駅の方から、越路を盛り上げるようなマップを作ってほしいという依頼を受けたこともあって、昨年度まで継続してきた調査・研究活動を踏襲する【「まちの駅」をフィールドとした活動等による地域活性化への貢献】と新しい試みとしてマップを作成する活動【「まちの駅」から越路地域の魅力を発信】の2取組を行った。ここに紹介する取組は、まちの駅をフィールドとした地域活性化への貢献である。最初に述べておきたいのは、この25名のチームワークが非常によいということである。2つの取組については一応チーム分けをしたが、ゼミ生全員が両取組に何らかの形で参加しており、その意味ではゼミ活動そのものの報告である。

報告書では、総論としての「調査・研究の目的」、「まちの駅の概要」から始まり、「まちの駅の情報発信活動」、「地域貢献を目的としたボランティアへの参加」と続き、「活動の振り返りと今後の活動に対する提言」を行っている。「調査・研究の目的」では、地域活性化に向けて今年度どのような活動を行ったかのリストアップとこの取組の全体構成をまとめている。「まちの駅の概要」ではまちの駅の機能、「まちの駅」と「道の駅」の違い、平成19年度から継続しているゼミ活動の簡単な紹介を行っている。「まちの駅の情報発信活動」では、新たに実施した子ども向け「まちの駅ってどんなところ」、(株)ユアテックでの活動報告の紹介、および、まちの駅へのヒアリング調査・パネル作成における新たな企画として、まちの駅のキャッチコピー、駅長さんの人柄紹介、各まちの駅への提言を行った。また、例年行っている悠久祭におけるまちの駅のパネル展、模擬店の出店も行った。「地域貢献を目的としたボランティア」として、「まちの駅&どまいち 春の物産フェア」から始まって、「とうきび観音まつり」「ハロウィンみつけ・見附マルシェ」などへ参加した。そのまとめでは、参加した時の様子に加え学生達を感じたことも整理しPDCAを行っている。これらの活動を受けて、最後に「活動の振り返りと今後の活動に対する提言」を行っている。

我がゼミの合い言葉は「GO!」である。活動が多く、統一されていないという批判はあると思われるが、社会人基礎力を身につける段階にある学生にとって、多くの活動に参加し、考え、次の活動に役立てるためには、経験を踏むことが大切である。その意味において、成長する学生の姿を垣間見ることができる報告書になっていると思っている。

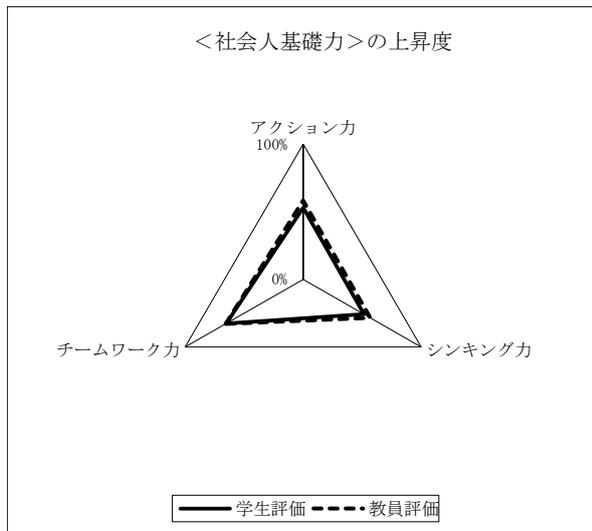
2つの取組全体を通して、学生はよく頑張ったと思っている。ヒアリング調査や文献調査、パネルの作成、成果の発表、ボランティア活動では自分の役割を充分認識しつつ、その上で、助け合う心や感謝する気持ちを持てるようになったと思う。もう一つの活動である【「まちの駅」から越路地域の魅力を発信】と併せて御一読いただければ、幸いに存じます。

なお、活動に当たっては全面的に応援して下さった「全国まちの駅連絡協議会 関東甲信越運営監事」の中川一男氏、「長岡市市民協働推進部市民協働課 主事」の岩嶋雄人氏はじめ、ヒアリング調査、パネル作成にご協力いただきました地域の皆様にも多大なるご協力をいただいております。この紙面を借りて深く感謝申し上げます。

平成30年3月

平成 29 年度 学生による地域活性化プログラム 社会人基礎力の上昇度

地域活性化プログラムにおける学生教育の目標は、社会人基礎力の向上、ビジネス展開能力の向上、専門的スキルの向上が目的である。平成 29 年度学生による地域活性化プログラムに参加した 8 取組の学生の「社会人基礎力」の伸び具合について、学生とゼミ担当教員にアンケートを実施した。アンケートは取組に参加した学生一人一人を対象に、社会人基礎力の変化を評価する形で実施した。学生は自己評価（有効回収 66）であり、教員は各ゼミ生についての評価である。



★「社会人基礎力」

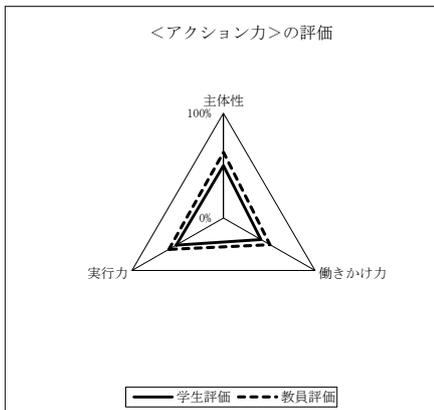
＝「アクション力」「シンキング力」「チームワーク力」が上昇

3 つの社会人基礎力の上昇度（取組前と取組後の比較）は、これまで学生の自己評価と教員評価の間に乖離があったが、今年度はその差が縮まり、チームワーク力は、ほぼ一致した。長年、活動を続けてきた成果ではないか。

今後の取組においては、全体的な上昇度を高めていくことが重要である。

＜社会人基礎力＞の上昇度

	学生評価	教員評価
アクション力	53.0%	58.2%
シンキング力	51.5%	56.7%
チームワーク	65.2%	65.7%

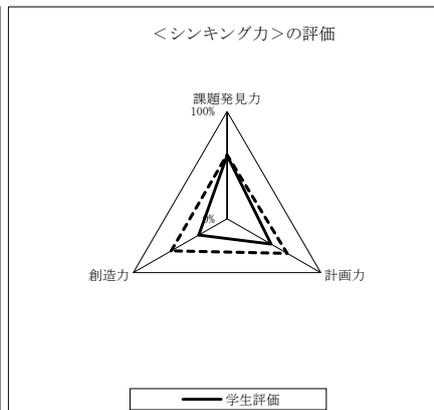


	学生評価	教員評価
主体性	50.0%	62.7%
働きかけ力	40.9%	50.7%
実行力	51.5%	59.7%

＜アクション力＞

アクション力の 3 つの指標を比較すると、すべての指標において教員評価が学生評価を 10 ポイント前後上回った。昨年度は全体的に学生評価の方が上回っていたが、今年度は逆の結果となった。

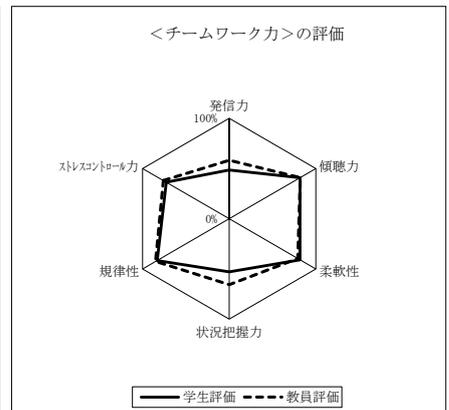
学生は活発に活動すればするほど自己評価が厳しくなり、このような結果になったのではないかと。今後は学生が成長をいかに実感できるというところまで追及した指導が必要となるのではないかと。



	学生評価	教員評価
課題発見力	59.1%	59.7%
計画力	47.0%	64.2%
創造力	30.3%	59.7%

＜シンキング力＞

学生の自己評価では、課題は見つけられたが、日々の活動の中で計画力や創造力という面で力不足を実感したのではないかと。しかし、それは学生にとってとてもよい経験になったはずである。教員評価は昨年度と比較すると 3 つの指標すべてで 20 ポイント前後上昇している。アクション力同様、日々の活動において、どのような点がよかったか、または悪かったなど、学生と教員とのコミュニケーションをさらに深めていく必要がある。



	学生評価	教員評価
発信力	48.5%	58.2%
傾聴力	81.8%	82.1%
柔軟性	81.8%	79.1%
状況把握力	53.0%	65.7%
規律性	83.3%	85.1%
ストレスコントロール力	72.7%	76.1%

＜チームワーク力＞

チームワーク力は、「アクション力」や「シンキング力」よりも学生評価と教員評価の類似性が高い。

学生の自己評価も同様であるが、教員の評価が発信力と状況把握力が低い点は、今後指導を強めていく必要がある。昨年に引き続き課題となった。

平成29年度 学生による地域活性化プログラム

鯉江康正
ゼミナール

「まちの駅」の魅力発信と地域活性化への貢献



【参加学生】25名
4年生 池田諒馬 江口枝里子 片桐湧太 木島俊久 小松綾乃
須田滉介 陈奥 田源一 中島なつ美 中曾根湧 薙澤雄樹
山崎隼斗 楊婉蘭 横田百合江 鷲尾創太
3年生 王巍 加藤茉那 Jargalsaikhan Byambatvshin 新保聡
鈴木絵莉香 Gantumur Uugantsetseg Tsogoo Munkhaya
Khurelbaatar Ganchimeg 李文秀
2年生 山城時生
【アドバイザー】
全国まちの駅連絡協議会 関東甲信越運営監事 中川一男氏
長岡市市民協働推進部市民協働課 主事 岩嶋雄人氏

今年も合い言葉は『GO!』 活動は楽しく。やらされてるから、自ら活動し地域貢献を。

<取組1>新潟県内のまちの駅の情報発信を目的とした活動

まちなかキャンパス長岡子ども講座こどもカフェ「まちの駅ってどんどころ」、(株)ユアテックでの活動報告の紹介。



長岡大学学園祭「悠久祭」では、県内のまちの駅 130 駅をパネルで紹介するとともに、越路マップの配布も行いました。また、今年も模擬店も行いました。



<取組2>地域活性化活動への参加(ボランティア)

「ハロウィンみつけ」、「今町まちなかマルシェ」の様子



「まちの駅」をフィールドとした活動等による地域活性化への貢献

鯉江康正ゼミナール

4年生

14K005 池田諒馬 14K013 江口枝里子 14K019 片桐湧太 14K026 木島俊久
14K038 小松綾乃 14K049 須田滉介 14K055 陳奥 14K057 田源一
14K062 中島なつ美 14K063 中曽根湧 14K068 薙澤雄樹 14K079 山崎隼斗
14K082 楊婉蘭 14K084 横田百合江 14K087 鷺尾創太

3年生

15K014 王魏 15K029 加藤茉那
15K059 ジャンガルサイハン・ビャンバトゥブシン
15K061 新保聡 15K062 鈴木絵莉香
15K401 ガントゥムル・ウーガンツェツェグ
15K403 ツォゴ・ムンフザヤ
15K404 フレルバートル・ガンチメグ 15K405 李文秀

2年生

16K071 山城時生

目 次

1. 調査・研究の目的	1
2. 「まちの駅」の概要と過年度ゼミナールにおける調査研究活動の概要	2
2.1 「まちの駅」の歴史と概要	2
2.1.1 「まちの駅」の歴史	2
2.1.2 「まちの駅」の概要	3
2.1.3 道の駅とまちの駅の違い	5
2.2 過年度ゼミナールにおける調査研究活動の概要	5
3. 新潟県内の「まちの駅」の情報発信活動	9
3.1 まちなかキャンパス長岡子ども講座こどもカフェ「まちの駅ってどんなところ」 の実施について	9
3.1.1 講座概要	9
3.1.2 実施目的	9
3.1.3 活動概要	9
3.1.4 まとめ	10
3.2 株式会社ユアテック技術センター中越地区安全協議会第27回安全大会への参加	11
3.2.1 参加目的	11
3.2.2 概要	11
3.2.3 まとめ	12
3.3 新潟県内の「まちの駅」のヒアリング調査・パネルの作成	13
3.3.1 ヒアリング調査を実施するまでの手順	13
3.3.2 パネル作成から完成までの手順	17
3.3.3 パネルの紹介	18
3.4 悠久祭	25
3.4.1 パネル展	25
3.4.2 模擬店	26
3.4.3 まとめ	27
4. 地域ボランティアへの参加	28
4.1 「まちの駅&どまいち 春の物産フェア」への参加	28
4.1.1 概要	28
4.1.2 まとめ	29
4.2 「とうきび観音まつり」への参加	30
4.2.1 概要	30
4.2.2 主なイベント概要	31
4.2.3 参加目的	33
4.2.4 まとめ	33
4.3 「今町まちなかマルシェ 2017」への参加	35
4.4 「ハロウィンみつけ・見附マルシェ」への参加	36
4.4.1 概要	36
4.4.2 主なイベント内容	37
4.4.3 まとめ	38

4.5	もみじ園でのマップ配布	39
4.5.1	マップ配布1回目	39
4.5.2	マップ配布2回目	40
4.5.3	所見	42
5.	ウェブページの更新	43
6.	とりまとめ	44
	謝辞	46
	参考文献	46

1. 調査・研究の目的

平成 29 年 12 月 11 日現在の時点で新潟県内の「まちの駅」の開設数は 130 駅である。昨年度より 1 駅増えた。地域別の開設数は、下越地方 8 駅、中越地方 107 駅、上越地方 15 駅となっている。

昨年度の鯉江ゼミナールでは、『「まちの駅」をフィールドとした活動等による地域活性化への貢献』をテーマとして、新潟県内のまちの駅の調査・研究と地域活性化活動（ボランティア）を行った。今年度もこの活動を引き続き行った。活動の目的はそれらの活動を通して地域を盛り上げることである。

まちの駅の調査・研究では、各まちの駅へのヒアリング活動を行い、その調査内容をパネルとしてまとめる。そして、パネルは、悠久祭や地域活性化活動で展示をしたり、長岡大学のホームページに掲載したりなど、多くの人に「まちの駅」を知って頂くことを試みている。そして、まちの駅を知った方が、まちの駅とその地域に足を運んでくれることを期待し、地域を盛り上げていくことを目的とする。

地域活性化活動（ボランティア）では、まちの駅を通じて様々な地域イベントへ参加をした。地域のお祭りのお手伝いや、まちの駅を紹介する発表、また地域のマップを作る活動では計画段階から参加をした。地域イベントを盛り上げることと、地域の方々との交流を深めることを目的とする。加えて、上記の活動を通して「まち」というものを知り、新たな地域活性化活動の方法を模索する。そこから更なる地域活性化へつなげていくことも目的とする。

今年度のヒアリング調査では、長岡市 8 駅、見附市 2 駅、三条市 1 駅の合計 11 駅のまちの駅にヒアリングを実施した。ヒアリング調査後に作成したパネルは、悠久祭のパネル展での展示と本学の地域活性化プログラムのホームページに掲載することで情報発信をしている。

今年度は地域活性化活動(ボランティア)として、7つ活動に参加した。例年参加している「まちの駅&どまいち 春の物産フェア」「とうきび観音まつり」「今町まちなかマルシェ」「ハロウィンみつけ 見附マルシェ」の4つと、今年度初となる「まちなかキャンパス長岡 こどもカフェ」「(株)ユアテック技術センター中越地区安全協議会」「越路まちの駅マップ作りと配付」の3つである。

本報告書の構成は以下のとおりである。

第2章では、まちの駅の歴史と概要、鯉江ゼミナールが過去に行ってきたまちの駅の調査・研究活動について紹介する。

第3章では、まちの駅の情報発信活動として取り組んだ、まちなかキャンパス長岡とユアテックでの活動報告、およびまちの駅におけるヒアリング調査とパネル作成、悠久祭での展示と模擬店の出店について紹介する。

第4章では、まちの駅の調査を通じて参加した地域におけるボランティア活動について紹介する。(ただし、第3章でふれた2つについては除く)

第5章では、まちの駅の紹介パネルを掲載するホームページの更新について紹介する。

第6章では、これまでの活動の振り返りとともに来年度の展望を述べ、とりまとめとする。

2. 「まちの駅」の概要と過年度ゼミナールにおける調査研究活動の概要

2.1 「まちの駅」の歴史と概要

2.1.1 「まちの駅」の歴史

本節は、「まちの駅足かけ 20 年のあゆみ」（文献 2）を参考にまとめたものである。

「まちの駅」は、「まちの案内所」「地域の茶の間」として、既存の施設、空間（公共施設・民間施設）を自発的に開放する活動として、平成 10 年からスタートした。各地の「まちの駅」では「郷土愛」や「人間愛」をもった駅長・駅員（まちの案内の人）が、地域の人や来訪者を「もてなしの心」で迎えるとともに、地域のちょっとした魅力を発信している。駅のネットワークにより地域全体の魅力を高めていこうという動きとともに、全国各地でまちの駅同士の交流・連携が進められている。

「まちの駅」は、「道の駅」の発想から変化していったものである。「道の駅」は道路空間の一部と位置付けられ、国道・新幹道路沿いに設置される公共インフラとしてスタートしたので、国道沿いに使える土地がない場合や、国道沿いではない場所に作りたいと考えても、「道の駅」は作れない。また、地域連携軸の構築という考え方の中で、「道の駅」が地域間連携の拠点となる機能を果たすと考えていたから、「道の駅」を設置できない市町村では、同じ機能を果たす「連携センター」を作る必要があると考えた。そこで、一市町村一箇所の設置を想定して、平成 10 年に「連携センター」の仮設実験を行った。新たに整備するための助成制度もなかったため、既存の公共施設を活用・開放して、その中に「地域連携機能」を置くという考えた方であった。中部横断自動車道の早期完成を求める静岡・山梨・長野の 33 の市町村で形成する「中部西関東地域連携軸協議会」では、市役所や公民館、ホールなどを活用して、「連携センター」の実験を行い、地域連携軸の形成も検討された。また、「連携センター」の正式名称を公募ガイドで募集したところ、2,700 もの応募があった中で、シンポジウムの中でも議論され、その結果「まちの駅」の名称を使うことに決定された。

その後、富山県高岡市の伏江努氏から株式会社として「まちの駅」に参画したいという要請があり、民間経営第 1 号の「まちの駅たかおか」が生まれた。

官の中に民間の発想や運営原理が入ると、議論のあり方が変わっていく。さらに、福岡県甘木・朝倉地域の上野春樹氏、手嶋隆行氏からは、「まちの駅」を街中に多数作って日常的に人が交流できる語らいの場にしたいという提案が出された。新しい発想を得て、「この指とまれ方式」で、商店や民間施設も含めた公募による「まちの駅」の実験事業が、21 施設の参加を得て行われた。その結果、多くの賛同を得て、民間施設の活用（開放）を中心に設置するネットワーク型まちの駅が、福岡から始まった。

設置賛同者が増えたところで、平成 12 年に「まちの駅連絡協議会」を立ち上げ、認証・登録を始めた。現在、全国に約 1,550 の「まちの駅」が設置されている。

2.1.2 「まちの駅」の概要

本節は、「まちの駅」のホームページの「<http://www.machinoeki.com/>」（文献5）を参考に「まちの駅」が備えるべき機能、施設等の要件を整理しておく。

（1）まちの駅の定義と機能

まちの駅は必ずしも新設のものである必要はなく、既存施設の活用により、市町村、NPO、団体等が地域連携を目指しネットワークを図ることを原則とし、様々な運営主体、施設内容、規模、運営形態を持ったまちの駅が、共存することを想定している。したがって、市町村という行政域を越えた連携を目指して、地域住民や来訪者が求める地域情報を提供する機能を備え、人と人の出会いと交流を促進する施設である。また、まちづくりの拠点となり、まちとまちをつなぐ役割を有するものであり、以下の機能を備えるものである。

- ☆ 誰でもトイレが利用でき、無料で休憩できる機能（休憩機能）
- ☆ まちの案内人が、地域の情報について丁寧に教える機能（案内機能）
- ☆ 地域の人と来訪者の、出会いと交流のサポートをする機能（交流機能）
- ☆ まちの駅間でネットワークし、もてなしの地域づくりをめざす機能（連携機能）

（2）名称およびシンボルマーク

3つの山のようなマークは「人」を表す。一つ目の山は「よそ者」、二つ目は「ばか者」、三つ目は「わか者」を表している。真ん中の「i（アイ）」はインフォメーションを表している。

つまり、このマークは「いろいろな人が集まり、出会いが生まれ、まちや地域のことを教えてくれる人がいる場所」を意味している。まちの駅は、このマークの本来の意味を保つためにも、人同士・駅同士の「交流」が何よりも大切である。

各まちの駅は、その理念を共有した上で、地理的条件、運営主体、運営目的などに応じて、個性ある名称を名付けることとしている。ただし、全国共通のシンボルマークを併記することが必要である。全国共通のシンボルマークは「まちの駅連絡協議会」に入会した者で、かつ一定の条件を具備した施設に使用が認められている。



まちの駅のマーク

（3）看板の設置

各まちの駅は、全国のまちの駅相互の連携を保ち利用者の信用を確保するために、一定の規格に沿った共通シンボルマークを表示した看板を設置することが義務付けられている。その規格等は別に定めた「シンボルマーク使用・看板設置マニュアル」に従うこととなっている。

（4）連携・支援

まちの駅は、相互に連携・支援し合うことを基本として、これらを促進するために、各地の状況に応じて連携支援事項を申し合わせることになっている。「道の駅」等との関係においては、とくに形式的に区別せず、相手との協議に応じて、共存、連携していくことが

勧められている。

(5) 人の配置

まちの駅には、「もてなしの心」をもった人を常駐させることが必要であるが、他の職務との併任でも構わない。案内人は、まちや隣接市町村等に関わる知識を習得するように努めることとされている。まちの駅運営者は、案内人が積極的に研修を受けられるよう配慮するとともに、他の地域を含む案内人どうしの交流の機会をつくることに努めることとされている。まちの駅連絡協議会主催の全国大会や研修会、その他地方大会等が開催される場合は、可能な限り派遣に努めることも必要である。

(6) 設備・備品・サービス

まちの駅に必要な最小限レベルの設備・備品・サービスは以下のとおりである。

- ☆ まちの駅看板（のぼり、シール等でもよい）
- ☆ 利用者が休憩できるスペース、椅子等
- ☆ トイレ（障害者も利用可能なものが望ましい）
- ☆ まちおよび周辺の情報

(7) 共通情報の整理、提供

まちの駅は、道路交通、地図情報、地元情報（観光、イベント、文化、歴史、住民活動等）、緊急時の対応等に係わる情報を常備することが必要とされている。

(8) 登録

まちの駅として登録を受けるためには、別に定める認定申請書に必要事項を記入の上「まちの駅連絡協議会 事務局」に提出しなければならない。「まちの駅連絡協議会」役員会で、まちの駅の要件を欠くと判断した場合、具体的な問題点を当該まちの駅に文書で通知することとなっている。通知を受けたまちの駅は早急に改善しなければならない。改善が図られない場合は、速やかに退会届を提出するものとなっている。

(9) 報告

まちの駅に携わる者は、相互の運営およびまちの駅の全国レベルでの運営戦略展開に資するために、所定の項目について、電子メール等を活用し、定期的に情報交換を行うこととなっている。報告項目については、まちの駅ホームページで紹介される。

(10) 全国組織

全国共通に実施することについては、「まちの駅連絡協議会」において定めることとし、その規定に従うことになっている。

2.1.3 道の駅とまちの駅の違い

「まちの駅」と「道の駅」を混同している方が多いというのは、各地からよく聞かれる声である。文字と違って、発音が似ているので聞き間違いやすいことも一因と考えられる。

「道の駅」は、①休憩機能②情報発信機能③地域連携機能の3つを合わせ持った公共施設である。利用者が無料で24時間利用できる十分な容量を持った駐車場や清潔なトイレがあることなどの登録要件とともに、設置者が「市町村または市町村に代わり得る公共的な団体」と定められている。

国土交通省のホームページ(文献6)では、「道の駅」の沿革として“平成3年10月～4年4月「道の駅」を実験(山口、岐阜、栃木県)”としか記載されていないが、「道の駅」の社会実験は国が行ったのではなく、地域交流センターが事務局となって、地元自治体や各種団体メンバーで協議会を組織して実施したものである。仮設の「道の駅」を設置して約1か月の利用状況を検証した。その実験成果を受けて、建設省道路局により「道の駅」の共通コンセプトが整理され、平成5年に「道の駅」は制度化された。それから20年以上が経ち、全国各地に「道の駅」の設置が進められ、平成28年10月時点で1,117駅が登録されている。「道の駅」の発想は、平成2年1月に地域交流センターが中心となって広島で開催した「中国・地域まちづくり交流会」の中で山口県の船方農場代表の坂本多旦氏が、「道路にも鉄道の駅のような施設があってもよいのではないか」と発言されたことに始まる。そこで、参加者の賛同を得て、道路沿いに「駅」を作る実験事業が始まった。トイレに困った体験がきっかけなので、「道の駅」にはトイレが必須の設備になった。一方、「まちの駅」は①休憩機能②案内機能③交流機能④連携機能の4つの機能を持った溜まり場である。コンセプトは「道の駅」とあまり変わらないが公共機関に限らず民間商店やNPO等でも設置・運営できる点が大きく違う。「全国まちの駅連絡協議会」が認証しているといっても条件はゆるくして駅長になる方の地域や人を思う気持ち、「おもてなし」の心を大切にしている。そのため個人商店や小規模施設から大型店舗や企業の工場。多機能施設など多種多様な主体が施設(の一部)を休憩&交流スペースとして開放し、「まちの駅」となっている。「まちの駅」をきっかけに思いを持った人同士がつながりゆるやかなネットワークが形成されている。

「道の駅」は、公共インフラとしての物理的作用により人々の利便性を高め、社会を支える機能も拡張している。一方の「まちの駅」では、街なかの様々な人々の出会いと語りの中から人間関係の化学反応が起きて地域を変える力になっていくことが期待されている。両者の違いから「道の駅」として登録された施設が地域内外の交流・連携を求めて、まちの駅ネットワークに参加する例も増えてきている。

2.2 過年度ゼミナールにおける調査研究活動の概要

本ゼミでは平成19年度より、「まちの駅」をテーマに調査研究活動を行ってきた。その概要は以下のとおりである。

<平成19年度>

①文献・資料調査により「まちの駅」の歴史と概要を整理し、②文献・資料調査及びヒアリング調査により、長岡市における「まちの駅」の現状と課題をまとめ、③「まちの駅

長岡大学」の活性化に向けて以下の4つの提言を行った。

提言1：交流会への積極的参加と学生への情報発信

提言2：教職員及び学生による「まちの駅 長岡大学」活性化協議会の設置

提言3：学内での「まちの駅 長岡大学」の認知と予算・人的協力体制の構築

提言4：学校施設の積極的解放と学外への情報発信

<平成20年度>

平成19年度の調査を受ける形で、①全国の「まちの駅」へのアンケート調査の実施、②長岡市の「まちの駅」のパネル及び商品の展示、③「まちの駅」の食材を使った模擬店（豚汁とおにぎりの販売）を行った。活動②及び③は学園祭（悠久祭）で実施した。

<平成21年度>

平成20年度のアンケートの調査結果及び、アドバイザーになって頂いている『長岡市民センター』の職員の方のすすめを受けて、①富土地域、会津地域、本庄地域の「まちの駅」にヒアリング調査を実施した。あわせて平成20年度同様、②長岡市の「まちの駅」のパネル及び商品の展示、③「まちの駅」の食材を使った模擬店（豚汁とおにぎりの販売）を実施した。ヒアリング調査からは以下の3点の提言を行った。

提言1：マスコットの募集と作成

提言2：パスポートの作成

提言3：ウォーキングイベントの実施

上記以外にも、「まちの駅」やゼミ活動をパネルにし、学内に展示するなど多くの活動を行ってきた。その結果、平成19年度には学生にほとんど知られていなかった「まちの駅」が、今ではほとんどの学生がその存在を知るようになっている。また、図書館や駐車場の一般開放など実行に移された提言もある。

<平成22年度>

長岡市内にある全ての「まちの駅」（平成22年調査時50カ所）でヒアリング調査を実施し、その内容を学生の視点でまとめた紹介パネルを作成した。作成したパネルは学園祭（悠久祭）でパネル展として展示し、多くの人に足を運んで頂いた。そして、例年同様に「まちの駅」の食材を使った模擬店（豚汁とおにぎりの販売）も行った。

また、越時計店の協力を経て、大手通りにあるブロンズ像を使ったカレンダーを作成し、「まちの駅」のパネルと同様にホームページでの配信を行った。

その他にも様々なイベントに参加し、和島地域で行われたイベントでは平成21年度の提言であるウォーキングイベントも実施された。

<平成23年度>

長岡地域の「まちの駅」が50駅から更に7駅増え、57駅になった。既存の駅については、再度ヒアリング調査を行い、変更箇所などを直しパネルを新たにリニューアルした。新たに加わった7駅については、まちの駅になった経緯やお店のPRなどをヒアリング調査し、パネルを作成した。例年同様に、作成したパネルは学園祭でパネル展として展示し、

「まちの駅」の食材を使った模擬店（炊き込みご飯と味噌汁の販売）も行った。

併せて、23年度はまちの駅の活動をとおして、その活動に参加している人々のまちづくりに関する意識がどう変わったかを検証するために、『「まちの駅」の活動による地域づくりに関する意識調査』を実施した。

<平成 24 年度>

平成 24 年度は、新たに見附地域の「まちの駅ネットワークみつけ」を対象にヒアリング調査、アンケート調査を実施した。ヒアリング調査は、見附地域の全ての「まちの駅」に対して、まちの駅になったきっかけ、お店のPRを中心に実施した。ヒアリングで聞いた内容でまちの駅紹介パネルを作成した。作成したパネルを学園祭で紹介し、まちの駅からの物品もパネルと共に展示した。学園祭の模擬店では、まちの駅の食材を使い「麻婆丼」の販売を行った。

アンケート調査ではまちの駅の交流力、経済効果、影響力の3つをテーマにして実施した。その結果、地域へ様々な面で貢献していることがわかった。

<平成 25 年度>

平成 25 年度は、糸魚川地域のまちの駅 10 駅および、新たに開設された長岡 5 駅、見附 2 駅の「まちの駅」にもヒアリングを実施した。ヒアリング調査後に「まちの駅紹介パネル」を作成し、悠久祭でのパネル展や地域活性化プログラムのホームページに掲載して情報発信を行った。また平成 24 年度までに制作した「越後長岡まちの駅」54 駅と「ネットワークみつけ」36 駅のまちの駅紹介パネルの修正・更新を実施した。

あわせて、新潟県内の全てのまちの駅にアンケート調査を実施し、施設別での分析と長岡や見附などの地域ごとでの分析を行った。

<平成 26 年度>

平成 26 年度は、新潟県内の新たにまちの駅となった駅や未調査の駅（21 駅）をヒアリング調査した。ヒアリングでは、駅名や住所、電話番号などの基本項目の確認、店または施設の紹介・PR、まちの駅になった理由などをお聞きし、これらの情報を基にパネルを作成した。パネルは、それぞれの駅の基本情報や駅長からのメッセージ、駅の様子がわかる写真などを載せた。また、学生それぞれが思い思いの「学生のつぶやき」を載せることで、よりそのまちの駅に興味を持ってもらえるようにした。そして、作成したパネルは学園祭（悠久祭）でパネル展として展示し、まちの駅からの物品もパネルと共に展示した。

まちの駅全国大会に参加し、全国のまちの駅の方との交流を通して、各地域の取組や課題を共有化できた。

<平成 27 年度>

平成 27 年度は、新潟県内に新たに開設された糸魚川、三条、上越、越路、新潟（各 1 駅）の 5 駅と、長岡市の組織変更により変更があった「ながおかまちの駅」の合計 6 駅をヒアリング調査し、パネルを作成した。

また、昨年度の成果発表会でアドバイザーの方から依頼された「各まちの駅がどのよう

なおもてなしをしているのかを調査し、各まちの駅の今後の活動の参考になるような情報を提供してほしい」に対応するために、新潟県内 127 のまちの駅に「おもてなし事例調査」を実施した。調査の目的については、まちの駅になって良かったと思うこと、自分のまちの駅や駅長さん自身でこれからどのような行動をしたらよいかを知ることである。

なお、有効回収数は 82 駅であり、回収率は 64.6%であった。調査の結果、各まちの駅は、基本的な機能を果たしながら、来られたお客様に「おもてなし」の心で対応していることが分かった。

<平成 28 年度>

平成 28 年度は、『「まちの駅」をフィールドとした、活動等による地域活性化活動への貢献』をテーマとして、新潟県内まちの駅の調査研究と地域活性化活動（ボランティア）を行った。

まちの駅の調査研究では、長岡 19 駅、見附 12 駅、糸魚川 2 駅、新潟 2 駅、魚沼 1 駅、五泉 1 駅、の合計 37 駅のまちの駅のヒアリング及びパネルの更新を行い、学園祭やアオーレ長岡市民共同センターで展示、ホームページで掲載を行った。

地域活性化活動（ボランティア）では、まちの駅を通じて地域イベントへ参加した。また、まちの駅全国フォーラム in Tokyo、新潟県内まちの駅交流会にて各まちの駅の方々と意見交換を交えた交流を行った。

3. 新潟県内の「まちの駅」の情報発信活動

3.1 まちなかキャンパス長岡子ども講座こどもカフェ「まちの駅ってどんなところ」の実施について

3.1.1 講座概要

①日時：平成 29 年 7 月 9 日(日)

②場所：長岡大学
花火の駅 長岡花火ワールド悠

③主催：まちなかキャンパス長岡子ども講座こどもカフェ

④長岡大学参加者

鯉江ゼミ	氏 名
4 年生	池田諒馬、木島俊久、薙澤雄樹、鷺尾創太
3 年生	新保聡、ガントウムル・ウーガンツェツェグ、 ツォゴ・ムンフザヤ、フレルバートル・ガンチメグ
2 年生	山城時生

3.1.2 実施目的

まちなかキャンパス長岡から、子供たちに「まちの駅」の魅力を伝え、まちの駅の活動内容や取り組みを、夏休みの自由研究の題材として使ってもらうために発表してくれないかという依頼があり参加した。加えて、鯉江ゼミナールの活動を発信する目的もあった。

3.1.3 活動概要

(1) 鯉江ゼミナールの活動紹介、モンゴルの紹介

①準備

まちなかキャンパス長岡主催の「まちの駅ってどんなところ？」に参加するにあたり、子供たちにまちの駅がどういう所か、またどういう活動をしているのかを知ってもらうために、どのような工夫が必要かを考えた。子供たちが飽きないために、まずパネルの紹介の途中にクイズを入れることにした。対象の子供たちが小学校低学年と聞いていたため、分からない漢字も多いと考え、漢字一つ一つにフリガナを振り子供たちが PowerPoint を見て解りやすいようにした。

また、モンゴルの留学生と一緒に作業をしていたので、モンゴルの事も知ってもらいたいという思いがあり、モンゴルの国柄や生活についての PowerPoint も作成した。

②当日の様子について

発表は 10 時からの予定であったが、発表時間前に子供たちがやってくると考え、作成済みの県内の「まちの駅」のパネルを展示した。それによって「まちの駅」に関する情報を発信することができた。

発表は熱心に聴いてもらえたようでメモを取る子どもや、自分がわからないことを私たち学生に質問してくる子どもたちや、お母さんにわからないことを聞いている子供もおり、「まちの駅」に関する理解を深めている子どもがいた。

(2) 花火の駅 長岡花火ワールド悠

花火の駅では、まちの駅のスタンプラリー、駅長さんカードの紹介や、花火に関わる資料のブースでの見学を行った。

まちの駅のスタンプラリー、駅長さんカードの紹介では子供たち一人一人の学年にあった紹介をしており、夏休みの自由研究にしやすい紹介をしており勉強になった。

(3) 小学生の感想

参加された小学生は 6 人（1 年生 2 人、2 年生 1 人、3 年生 2 人、5 年生 1 人）と少なかったが、講義は楽しかったかという、アンケートに対しては 6 人中 5 人がとても楽しかった、1 人が楽しかったという回答が得られた。

小学生の感想としては以下のような自由意見が得られた。

- ・まちの駅にいっぱい行ってみたいです。
- ・私の知りたいことが知れて良かった
- ・とても話し方が上手なので、とても聞きやすくてわかりやすかった
- ・まちの駅のことをたくさん知ることができて良かったです。シールラリーで今度、シールやカードを集めたいです。

このように、充実した講義だったという回答が多かった。

3.1.4 まとめ

子供に向けて、活動紹介をするのは初めての機会です。子供たちが楽しくわかりやすいように、試行錯誤繰り返しながら当日に向けて準備をした。工夫した点は、漢字ひとつひとつにフリガナを振ること、発表の中にクイズを入れることである。その結果、熱心に聞いてくれている子供たちも多く、質問などもたくさんあった。

しかし、花火の駅の発表を聞き、自分たちの発表には無いものがあり勉強になった。具体的には、長岡市内のまちの駅の特徴や駅長さんの特徴をあげることによってまちの駅ひとつひとつに個性があること、すべての駅が取り組んでいること、一部の駅だけが取り組んでいることを紹介し子供たちに興味を持たせた後に、学年を意識した紹介を行うことで学年にあった自由研究の内容をこども達が考えやすいように導いていたことである。この花火の駅で学んだことを今後の発表に活かしていきたい。

最後にまちなかキャンパス長岡「まちの駅ってどんなところ？」に参加して、自分たちも発表を楽しめたこと、留学生との交流しながら準備ができたことは良かった。そして、自分たちもまちの駅についてもっと知らなくてはならないといけないと感じることができ、

私達もこの発表で得るものや、新たな課題が発見できとてもやりがいがあった。



当日の様子

3.2 株式会社ユアテック技術センター中越地区安全協議会第27回安全大会への参加

3.2.1 参加目的

株式会社ユアテックの関係者の方より「鯉江ゼミナールの活動について講演してほしい」との依頼を受けた。これまでのゼミナール活動について発表する良い機会であったこともあり、この大会に参加した。

3.2.2 概要

(1) 日時

平成29年8月23日(水)

(2) 場所

株式会社ユアテック 中越営業所

(3) 主催・依頼元

技術センター中越地区安全協議会

(4) 長岡大学参加者

	氏 名
長岡大学 教授	鯉江康正
4年生	池田諒馬、片桐湧太、木島俊久、小松綾乃、 中曽根湧、薙澤雄樹、鷺尾創太
3年生	加藤茉那、新保聡、鈴木絵莉香、ガントウムル・ウーガンツェツェグ ツォゴ・ムンフザヤ、フレルバートル・ガンチメグ

(5) 活動内容

『「まちの駅」をフィールドとした地域活性化への貢献』の題目で、60 分間の講演を行った。前半は、鯉江ゼミナールの昨年度及び今年度の活動の様子、後半はモンゴルについての紹介を行った。

(5-1) 鯉江ゼミナールの昨年度及び今年度の活動紹介

昨年度の活動については、まちの駅のヒアリング活動、ハロウィン見附・まちの駅全国フォーラム・悠久祭・まちの駅交流会等の活動の様子を紹介した。今年度については、7月の長岡まちキャンイベントへの参加、作成中の越路まちの駅マップ作り、8月のとうきび観音まつりの活動の様子を紹介した。

また、ヒアリング活動を通して、学生のおすすめのまちの駅を4駅（糸魚川市の「まちの駅ひすいの海」、魚沼市の「まちの駅雲蝶の郷内田邸」、長岡市越路地域の「ほたる焼きとせんべい薪ストーブの駅」と「酒蔵のある里 酒楽の里あさひ山」）を紹介した。

(5-2) モンゴルについての紹介

発表時間が60分間と長かったこと、またモンゴル出身の留学生がいたこともあり、モンゴルについての紹介を行った。

3.2.3 まとめ

この大会への参加は初めてであり、今年度からの新しい活動である。そのため、60分間の講演という今までにない初めての経験をした。これまでの発表時間は長くても30分程度であったため、60分間の講演時間に対してどのような内容が適しているかを考えるのにとても苦労した。結果として、学生おすすめのマチの駅の紹介やモンゴルの紹介を併せて行うことで、その問題を解決することができた。

苦労はあったが、その分3つの成果を挙げられることができた。

1つ目は、昨年度からの課題であった留学生との交流である。日本人学生と留学生が共に発表の練習を重ねるなかで、親睦を深めることができ留学生との交流につながった。

2つ目は、多くの方にまちの駅や鯉江ゼミナールの活動を知って頂けたことである。この大会は今年度初めて参加したため、昨年度までは接点が無かった方々にも、私たちの活動を紹介することができた。そのことで、まちの駅に対する認知度は向上したと思う。

3つ目は、発表の経験を得られたことである。今年度初めての発表であったため、緊張した学生は多かった。しかし、多くの方々の前で発表する良い経験を積む事ができた。

最後に、来年度以降もこのような大会に積極的に参加し、発表の経験を増やしていきたいと考える。同時に、まちの駅の更なる認知度の向上にもつなげていきたい。



講演の様子

3.3 新潟県内の「まちの駅」のヒアリング調査・パネルの作成

今年度は、活動の一つとして、新たにまちの駅として認定された駅（以下「新駅」とする）を中心にまだパネルを作成していないまちの駅のヒアリング調査及びパネル作成と、過去に調査したまちの駅のパネル更新作業を行った。今年度は、越路のマップ作りも行った。その過程で越路のある全てのまちの駅も更新作業を行った。

今年度、ヒアリング調査を行った駅は 11 駅であり、そのうち、パネル更新を行ったまちの駅は 6 駅で、新たにパネルを作成した新駅は 4 駅である。

3.3.1 ヒアリング調査を実施するまでの手順

ヒアリング調査を実施するまでに行った作業の手順は以下の通りである。

<手順① リスト作成>

新潟県内のまちの駅リストを作成した。

過去に使用したリストと「全国のまちの駅連絡協議会」ホームページ内にあるまちの駅帖を参考に作成した。この時点で、「まちの駅帖」に掲載されている住所や電話番号などが間違っていることが多く、思いのほか大変な作業となった。

<手順② パネルに関する確認文書の送付>

今年度は、新潟県内にあるヒアリング調査を行いたいまちの駅にパネル作成に関する文書を送付した（「まちの駅にお送りした文章」を参照）。

越路地域のまちの駅には、マップ作成の打ち合わせの時にヒアリングを行う旨を伝えた。

<手順③ アポイントメント>

ヒアリング調査を行う駅にヒアリング調査のアポイントメントを取った。この時に代表の方が不在であったり、すでにやめていたなど苦労が多かった。

今年度は、アポ取りから実施までの期間を十分にとったので、各まちの駅への質問リストを作成することができた。

<手順④ ヒアリングの実施>

夏季休暇を利用してヒアリング調査を実施した。まちの駅を始めたきっかけやその駅の特徴、その地域のおすすめスポットなど色々なこととお伺いした。

パネルを作成する時に、文章の内容はもちろんのこと、文章や写真の位置、背景などといったデザイン面をどうしていくかなど駅長さんと話し合った。どの駅も温かく対応していただき、初めは不安であったヒアリング調査も慣れていくことができた。

平成29年9月4日

「まちの駅」 駅長 様

長岡大学鯉江ゼミナール 鯉江康正

鯉江ゼミナール まちの駅調査活動ご協力をお願い

拝啓

はじめまして、私は長岡大学の鯉江ゼミナールの担当教員の鯉江と申します。

鯉江ゼミナールでは、平成19年度から「まちの駅」をテーマに、ヒアリングやアンケート調査を実施してきました。「越後長岡まちの駅」から始め、昨年度は、県内まちの駅を対象に同様の調査をしました。今年度は、すでに作成済みのパネルの更新とまだ作成の終わっていないまちの駅のパネル作成を計画しております。

つきましては、パネル作成のため、まちの駅担当の方にお話を伺いたと思います。

お忙しい中大変恐縮ですがご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

敬具

<ヒアリング内容>

- ☆ 貴「まちの駅」のご紹介およびアピールポイントをお聞きます。
- ☆ 周辺地域の若者が集う場（お店等）をご紹介ください。
- ☆ 周辺地域の地域資源（観光スポット、デートスポット等）をご紹介ください。

<ヒアリング予定>

- ☆ ゼミ学生より、後日アポイントの連絡をさせていただきますので、よろしくお願い致します。

<同封参考資料>

- ☆ 平成27年度および平成28年度「ゼミ活動報告書」

<連絡先>

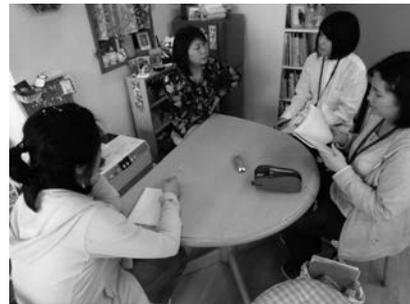
〒940-0828 新潟県長岡市御山町80-8

長岡大学 地域連携研究センター 山田

TEL: 0258-39-1600 (代)

FAX: 0258-39-9566

まちの駅にお送りした文章



ヒアリング時の様子

3.3.2 パネル作成から完成までの手順

パネルの完成までの手順は以下の通りである。

<手順① 情報整理>

まずはヒアリング調査で得た情報を皆で共有した。

<手順② パネル作成>

PowerPoint を使用しパネルを作成した。ヒアリング調査で頂いた資料やまとめた情報を基に作成した。その駅の特徴を意識したデザインを考えるのが大変であった。また、実際に印刷してみると文字や写真の大きさ、色といった全体の雰囲気などがパソコンのディスプレイで見た時と違っており、何度も作り直した。

<手順③ 仮完成>

完成したパネルを各駅にメールでお送りしたり、直接持っていったりして、内容やデザインなどを確認していただいた。

<手順④ パネルの修正>

修正箇所を頂いた駅に関しては、修正した後に、もう1度メールなどでお送りして確認をとっていただいた。修正内容としては、デザイン面より文章の変更や修正が今年は多かった。

<手順⑤ パネルの完成>

駅長さんの OK を頂いて完成である。それぞれのまちの駅や地域の特徴・個性が出せるよう工夫しパネルを作成した。例えば、「まちの駅 ほっとぴあ」は、3階建ての建物だったので、各階をイメージした写真配置にした。「まちの駅 越路我龍」は、ラーメンの写真を中心に配置し、サイズは他より大きくすることで目立たせている。それによりラーメン屋であることがわかるようにした。

3.3.3 パネル紹介

(1) 更新パネルの紹介

どのような更新を行ったかのか、更新前と更新後のパネルを用いて紹介する。

三条地域

まちの駅 三条ベース

更新前

この駅は、本町の真ん中の菅原小路の角にあります。元々ここは菅原時計店という、三条で初めての鉄筋のお店でした。時計店が廃業になり、さて、どうしたものかという時、この町で生まれ育った一人の男子が、ここを残したい！と、立ち上がりました。それが駅長の高橋さんです。人づくりのつくりから、町中に昔のような賑やかさを取り戻したくて、まちの駅も始められました。






建物の1階は起業家応援の場です。

事務所は家の居間のように、とても暖かい雰囲気です。






三条市本町は元々三条市の中心です。昔は、行き交う人の肩がぶつかるほど、賑やかで、元気でした。今は労働力が大都市へ行って、人が少なく（特に若い人）になりました。本町の周りはお寺や居酒屋など、たくさんお店がありますが、何となく閑散としています。お話を聞いて、昔の様子の中にどんどん浮かんできました。






〒955-0071
三条市本町 2-8-11
TEL・FAX：0256-55-1165

学生のつばやき

駅長の高橋さんはとても元気で魅力的な方です。三条市の歴史、物作り、いろいろなことを教えていただきました。「世の中を豊かにするための自分の存在の確立」、「誰かの幸せを創るために存在すること」などの言葉は、大変な勉強になりました。「小人の国のナノブランド」の本をいただき、とてもうれしかったです。

1 2 E 4 0 1 蘭 海潮

三条地域

まちの駅 三条ベース

更新後



この駅は、駅長さんがプロデュースした雑貨や懐かしい駄菓子、レトロゲームがあり、学校終わりの子ども達や、子どもにかまけた大人が集まる楽しい空間の駅。子どもの来訪は月1,000人。休日には、新発田や村上から来るそう。

この駅を始めたきっかけは、昔のように子ども達が楽しめる場所を作りたい。そして、自分が楽しめる懐かしい場所を作りたいからでした。



三条ベースは、駅長さんにとって帰家！





三条ベースのルール
＜裸足で走らない＞

懐かしい駄菓子から最近の駄菓子まであります。





駅長さんがプロデュースしている商品

夏や漢画、ハンモックなんかもあります

なんでも感やすかまど

エリア案内図

〒955-0044
三条市田島 1-17-9
TEL・FAX：0256-55-1165

＜学生のつばやき＞

レトロゲームでハイスコアを目指して楽しかった。駄菓子を買うという行為が初めての学生もあり、スーパーではなかなか見ない、かつ安かったのでついに派山買った。こういう場所が子どもの頃に欲しかった。今後は、家に帰っても一人という子ども達のために二階の倉庫を塾にしようと考えているそう。

14K026 本島俊久 14K087 鷲尾創太
14K019 片桐湧太 14K079 山崎隼斗

<更新点>

- ・今年度のヒアリング内容を基に文章と写真を変更
- ・駅の様子が変わっているので住所と地図を変更
- ・写真の大きさに変化をつけた

(2) パネルを作成した駅の紹介

今年度、パネルを作成・更新した駅は以下の通りである。

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| ・『まちの駅 JAZZ 楽』 | ・『ほたる焼きおせんべい 薪ストーブの駅』 |
| ・『手作り漬物の駅』 | ・『まちの駅 越路古民具の駅』 |
| ・『まちの駅 酒蔵の里』 | ・『まちの駅 越路我龍』 |
| ・『まちの駅 森の仲間「千の森」』 | ・『まちの駅 ほっとぴあ』 |
| ・『まちの駅 抹茶の駅』 | ・『まちの駅 三条ベース』 |

この 10 の駅の中から、3 駅を紹介する。なお、その他の駅は「5. ウェブページの更新」で紹介する長岡大学のホームページから閲覧できる。

<まちの駅抹茶の駅>

「まちの駅抹茶の駅」(以下、抹茶の駅)は見附市にあるまちの駅です。43年続くまちのお茶屋で、地域の常連の方に愛されている優しい駅長さんが経営しています。地域の憩いの場を残したいという強い思いから、まちの駅として始められました。

店内では、抹茶など普段見かけるものから、猫のイラスト入りティーパックなど珍しいものまでたくさんのお茶を販売しています。その他に、茶道教室や駅長さん直伝のお茶の入れ方を提供しており、実際にお茶を入れることもできます。駅長さんが教えるお茶の入れ方は、特別な道具は必要ありません。お茶を点てる茶笥(ちゃせん)と計量カップ、スプーンがあれば入れられます。誰でも簡単にできるため必見です。

加えて、駅長さんが入れるお茶を楽しむこともできます。私達が伺った際は、抹茶や冷たい緑茶を頂きました。少し苦かったですが強い旨みもあり、お茶のおいしさにとっても驚きました。この経験を通して、改めてお茶の良さを実感できました。

この抹茶の駅を一言で表すならば「地域に愛される優しさ 抹茶の良さが分かる駅」です。

見附市を訪れた際やお茶に興味がある方は、是非立ち寄ってみてください。駅長さんが入れる抹茶を楽しみながら、抹茶の魅力を感じてみてはいかがでしょうか。

最後に、抹茶の駅をより多くの方に知って頂くため、学生目線から提案をします。その提案とは、「みつけ健幸の湯ほっとぴあ」(以下、ほっとぴあ)にて、お茶の試飲会などを開催することです。試飲会を通して、ほっとぴあを利用する多くの方にお茶の魅力を伝え抹茶の駅に興味を持つ人が増えると思います。また、ほっとぴあは抹茶の駅と同じまちの駅であるため、まちの駅どうしの連携も深めることができると考えています。



抹茶の駅、ヒアリング



まちの駅 抹茶の駅



まちの駅を始めたきっかけは、地域の人たちのコミュニティーの場を作り、お抹茶を通じてほっとしてもらえる場を作りたいと思ったからです。

お茶やお茶道具、お菓子の販売、お抹茶とお菓子で楽しみながら季節を感じられる「茶道講座」や、気持ちが落ちこんだりつらくなった時に自分で自分の心をケアしたり、大変そうな人を楽にしてあげる関わり方の講座「心と体が元気になるセミナー」も行っています。

今後はもっと若い人たちにお茶の魅力を伝え、お茶会などを通じて地域活性化をできたらいいと考えています。

商品一覧①



商品一覧②



猫のイラストが入ったものや、メッセージ性の強いティーバックは贈り物におすすめ！！

一番の人気商品は、玉露かりがね！



駅長さんとピース

～学生コメント～

急須でお茶を入れることが減ってきましたが、急須で入れた美味しいお茶を飲ませていただけます！
また、お抹茶は茶筌さえあれば、適当なお茶わんとポットの湯で楽しむ方法を教えてもらえますよ！！
おいしいお茶でほっこりしてみませんか！

池田諒馬・片桐湧太・加藤素那・山城時生



Googleマップより

〒954-0053

新潟県見附市本町1-7-4

☎0258-62-0486

営業時間 9:30～17:00

定休日 毎週水曜日・第三火曜日



平成29年作成

「まちの駅抹茶の駅」 作成パネル

パネル作成において心がけた点

→お茶とその道具の写真をメインに載せ、どのようなまちの駅か一目でわかるようにした。

→おすすめ商品など目立たせたい所は文字の色を変え、見て分かりやすいようにした。

<まちの駅 三条ベース>

「まちの駅三条ベース」（以下、三条ベース）は、一言で表すなら子供たちの憩いの場です。

三条ベースがまちの駅を始めたのは、駅長さんが子供だった頃のような遊びと学びの場を提供したいと考えたからだそうです。

また、倉庫を買い取りまちの駅を設立した理由として、駅長さんが所ジョージの世田谷ベースに憧れ、いつの日か所ジョージさんに来ていただき「馬鹿だねえ」と言ってもらえる夢があるからだそうです。

昔懐かしい駄菓子を売っていて、また、レトロゲーム・ミニ四駆・漫画本なども揃えてあり、子供たちが沢山来ています。私達がヒアリングに行った際も、学校終わりの小学生が自転車に乗って本当に沢山来ていました。子どもたちは月 1,000 人が来ており、中学校と高校も合わせれば 12 校から子供が来るそうです。休日は子供だけでなく大人たちも遊びに来ます。市外から来る人もいます。

今後は、2階に寺子屋を開設し、より一層遊びと学びの場を提供できる駅にしていきたいと考えているそうです。

最後に三条ベースのキャッチコピーは、「明るく気さくな近所のお兄さん。三条ベースは俺の部屋！」です。

学生からの提案としては、「ここは俺（駅長）の部屋！」とのことなので、私達から提案することはありません。とても、気さくな地域のお兄さんのような駅長です。

皆さんぜひ行ってみてください。



三条ベース、ヒアリング

三条
地域

まちの駅 三条ベース



この駅は、駅長さんがプロデュースした雑貨や懐かしい駄菓子、レトロゲームがあり、学校終わりの子ども達や、子どもにかまけた大人が集まる楽しい空間の駅。子どもの来訪は月1,000人。休日には、新発田や村上から来るそうだ。

この駅を始めたきっかけは、昔のように子ども達が楽しめる場所を作りたいかった、そして、自分が楽しめる懐かしい場所を作りたいかったからさ。



三条ベースは、駅長さんにとって俺の家！



三条ベースのルール
＜裸足で走らない＞



懐かしい駄菓子から最近の駄菓子までありました。



駅長さんがプロデュースしている商品



駅長さんのお知り合いがくれた昔懐かしい自転車やミニ四駆や卓球台、レトロゲームがあります。丁度子ども達が卓球で遊んでいました。



畳や漫画、ハンモックなんかもありました



なんでも燃やすかまど



エリア案内図



出典: Googleマップより

〒955-0044
三条市田島 1-17-9
TEL・FAX: 0256-55-1165

SANJO.B.F.BASEが
目印↓



《学生のつぶやき》

レトロゲームでハイスコアを目指して楽しかった。駄菓子を買うという行為が初めての学生もあり、スーパーではなかなか見ない、かつ安かったのでついつい沢山買っていた。

こういう場所が子どもの頃に欲しかった。

今後は、家に帰っても一人という子ども達のために二階の倉庫を塾にしようと考えているそうだ。

14K026 木島俊久 14K087 鷲尾創太
14K019 片桐湧太 14K079 山崎隼斗

「まちの駅 三条ベース」作成パネル

パネル作成において心がけた点

→駅の楽しい雰囲気を伝えるため、小学生やゼミ生が楽しんでいる写真を入れた。

→目印となる看板を紹介することで、駅の場所を分かりやすくした。

<まちの駅 JAZZ 楽>

「まちの駅 JAZZ 楽」は長岡市の槇山町にあります。こちらは同市の越路町にある「まちの駅千の森」からの紹介を受け、開設されたそうです。駅長さんはジャズが盛んな町である北海道の根室の出身で昔からジャズを中心とした音楽に触れてきました。性格はまさにジャズのテーマのような自由な方で、営業日も営業時間もほとんどその日に決められています。やっていない日でも隣の自宅を訪問すればお店を開いてくれるかもしれません。店の前のバス停でバスを待っている方に気軽に立ち寄ってもらうことや、音楽を中心とした老若男女の交流の場を提供することを目的にしています。また、CD やレコードを持ち込めば駅長さんがそれを流してくれます。私たちがヒアリングで訪れた際には、元気になれる曲というリクエストに答えて音楽をかけてくれたりと非常に自由な空間という印象が強かったです。

そんなまちの駅ジャズ楽さんのキャッチコピーは、「ここで見つけるあなたの楽譜」です。是非一度立ち寄ってみてあなたのお気に入りの音楽を探してみたいはいかがでしょうか？



JAZZ 楽、ヒアリング



まちの駅 JAZZ楽



Googleマップより

〒940-2002
長岡市横山町1662
☎0258-27-0516
📠0258-27-7851

～JAZZ楽メモ～

元々食事処である“魚楽”さんは、店の前でバスを待っている人に気軽に立ち寄ってもらったり、音楽を通じた老若男女の交流の場をつくりたいと考えていました。

そんな時、まちの駅「森の仲人千の森」さんからの紹介を受け、まちの駅を始めました。

気軽に立ち寄れる工夫として、お店の注文しなければならぬという雰囲気をなくすため、メニューが小さく目立たないようにしています。

60年代のJAZZ喫茶のような(学生にはわかりませんが)雰囲気を楽しめます♪

JAZZが盛んな町で育った駅長さんは、自由が好きな方で、営業日も営業時間もALL FREE! お店の隣が自宅なのでドアをたたけば開けてくれるかも!?

駅長さんの好きなものが溢れた空間が魅力的!! 年代物の雑貨や数多くのレコードがあなたの心に響きます♪

JAZZが盛んな町って何処だか分りますか??



飲み物を買ってどうぞ～♪



駅長さんとグ～♪



一階はJAZZ喫茶!
二階は・・・?



学生のつぶやき

JAZZが流れる素敵な店内。一度きりの人生は、楽しむことがいちばん! 音楽を通じて楽しい毎日をごすなら、JAZZ楽へ行こう!

中曽根湧・加藤茉那・新保聡・鈴木絵莉香

平成29年度作成

「まちの駅 JAZZ 楽」作成パネル

パネル作成において心がけた点

- ジャズをイメージしたネオンのような雰囲気の表現
- 背景を黒にして目立つように
- 黒に合わせて文字や枠線を蛍光色に

3.4 悠久祭

(1) 概要

この企画は平成 20 年度から始まっており、今年度で 10 年目である。平成 20 年度は長岡市内の 29 のまちの駅を対象に行ったが、今年度は新潟県内の 130 駅のまちの駅のパネルを展示した。

今年はパネル展に加え、模擬店も出店した。模擬店は昨年に引き続き水餃子を販売した。

(2) 日時

平成 29 年 10 月 28 日(土)～29 日(日)

(3) 場所

パネル展…長岡大学 216 教室

模擬店…三号館側屋外



今年度のまちの駅パネル展の様子

3.4.1 パネル展

(1) パネル準備

今年度は、130 駅中 10 駅のパネルを更新・作成し、パネルを地域別に分け、見やすいよう工夫をしながら展示の準備をした。

(2) パネル展当日

ゼミ生数人が、午前と午後に分かれてパネルの説明や来場者数のカウントを行い、来場者には模擬店の情報を書いた整理券を配布した。

(3) パネル展取組結果

今年度のパネル展来場者数は 300 名であった。昨年の来場者数より下回る結果となった。

来場者の質問に対して学生が分かりやすく説明し、まちの駅について興味を持ってもらった。あわせて、ゼミ活動で今年度作成した越路マップの展示・配布も行った。

たくさんの来場者を呼んだことが評価され、大学のイベントコンテストでは 2 位を受賞することができた。



前日準備後の集合写真

(4) 反省点と課題

今年は昨年度行ったお茶やお菓子のおもてなしがなかったことや、2日目の天候が悪かったことが来場数の減少につながったように思われる。

3.4.2 模擬店

(1) 模擬店準備

模擬店を出店するにあたりゼミで話し合った結果、今年度も昨年度に引き続き水餃子を販売することに決めた。



水餃子

(2) 模擬店当日

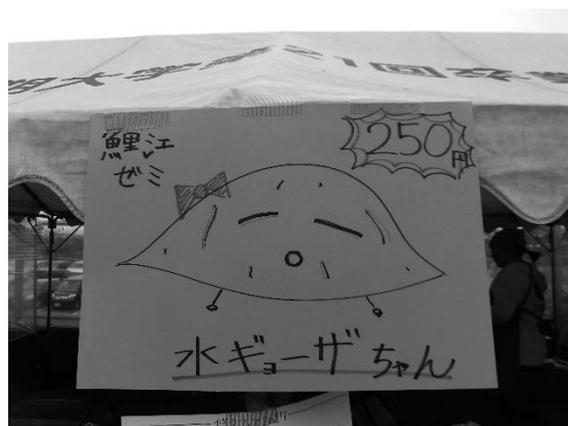
1日目は寒かったため売れ行きは上々だった。予定よりも早いペースで水餃子が売れたため、2日目分の材料を使い、足りない分は買い足した。

2日目は水餃子を茹でる用、スープ用、つぎ足すお湯用とコンロを3つ使用することで、お客様を待たせることなく効率よく水餃子を販売することができた。

午前中は前日と同じぐらいの売り上げだったが、イベント終了後の昼にはたくさんのお客様が訪れた。しかし午後になると大雨になったため売り上げは1日目ほど伸びなかった。

しかし、昨年度よりも早く午後2時にはすべての水餃子を売り切ることができた。

また、模擬店で品物を購入された方にはパネル展への招待券を配り、ゼミ活動を知ってもらった。



マスコットの水餃子ちゃん

(3) 取組結果

1日目は水餃子 111食、2日目は 92食を販売した。2日間の売上合計額は 53,930円となった。仕入れ値などを引いた結果 39,930円の黒字となった。

(4) 反省点・課題

2日目に伝達ミスにより、水餃子を1食分に3つ入れるところ2つしか入れないミスがあった。早めに現場に出向いてミスを確認しておくべきだった。

昨年度反省に挙げた水餃子の型崩れを防ぐために水餃子用の餃子を使用したため、長時間ゆでも皮が崩れず見た目や味が良いまま提供できた。

雨の予報があり、来場者数は去年よりも少ないことを予想し販売予定数を少なめに設定していた。しかし当日は予想に反し売上が予定数を大幅に上回り、材料が足りなくなりました。そのため何度か追加で材料を購入した。もう少し販売予定数を増やし、多めに材料を買うべきだった。



当日の様子

3.4.3 まとめ

2年目ということもあり、パネル展も模擬店も昨年度よりもスムーズに活動することができた。

今年はゼミ生のシフトを組んだが、予想以上に忙しくシフト通りには動けなかった。しかしゼミ生全員が臨機応変に動くことができたことで悠久祭を成功させることができた。

4. 地域ボランティアへの参加

地域の人々との交流や地域への貢献を目的に、「まちの駅」の調査活動を通じて、交流した駅の依頼でボランティア活動に参加した。

今年度は、「まちの駅&どまいち 春の物産フェア」、「とうきび観音祭り」、「今町まちなかマルシェ」、「ハロウィンみつけ・見附マルシェ」、「もみじ園のマップ配布」の5つのイベントに参加した。

4.1 「まちの駅&どまいち 春の物産フェア」への参加

4.1.1 概要

全国のまちの駅のネットワークを活かし、北は北海道から南は沖縄まで各地の名産品を「新潟ど真ん中市場 どまいち」と共同開催で販売を行った。「新潟ど真ん中市場 どまいち」は、現在一大市場となったインターネットショッピングに、見附の店舗が集まるショッピングモールを構築し、全国に向けて見附の名産品や各種情報を発信することで、新潟県の見附市を知り、身近に感じてもらい、首都圏との交流を促進し地域づくりを目指すものであり、平成21年度から実施されている。

学生は、会場で行われた物産の販売、ガラポン抽選会の運営を行った。

(1) 日時

平成29年度3月12日(日)

(2) 場所

ネーブル見附

(3) 主催

まちの駅ネットワークみつけ

(4) 参加者

〈学生参加者〉

池田諒馬、片桐湧太、中曽根湧、鷲尾創太

〈当日参加のまちの駅 一覧〉

地区・県	駅名
東京	まちの駅 青梅
栃木	まちの駅 新・鹿沼宿
福島	まちの駅ネットワークふくしま まちの駅 野馬追通り銘醸館(南相馬観光協会) まちの駅ネットワーク伊達 (一社)伊達市観光物産交流協会

見附	カーライフステーション、お菓子の駅、お菓子のマルシェ 元気のでる駅、(有)吉乃川酒店健康な住まいの駅 (株)星野工務店ほっと一息、花みどりの駅 接骨・整骨の駅、水車小屋の駅
長岡	ぎんなんアイスクリームの駅、まちの駅 もてなし家 まちの駅 いろり茶屋 火処、まちの駅 菓子処 越後物語 あぶらげ巻寿司の駅、手作り漬物の駅

4.1.2 まとめ

今回、ゼミ生は物産の販売と抽選会の運営ボランティアとしてこのイベントに参加した。物産販売、ガラポン抽選会共に客足が途絶えることなくイベントが行われた。スムーズな運営をするため、見附の地元の方や各まちの駅の方とコミュニケーションをとりながら運営を行った。

まちの駅と「新潟ど真ん中市場 どまいち」が共同で行われたこのイベントに参加して、地元の方だけではなく各県から来られたまちの駅の関係者とも交流を深めることができる活気あふれるイベントだった。学生はこれらの方々との交流によって、コミュニケーション能力が向上した。

また、活動を通じた地域交流を行うことによって、ゼミ生は各地域の特色や名産、物産を知ることができ良い刺激を受けられた。今後も、新潟県内のまちの駅だけではなく、各県のまちの駅と交流を深めていきたいと考える。



当日の様子

4.2 「とうきび観音まつり」への参加

4.2.1 概要

とうきび観音まつりは、江戸時代に栃尾で厳しい食糧難に見舞われた際に観音寺の住職がとうきび(トウモロコシ)を配り、作付けを教え広めたことで危機を脱することができたことを忘れないために毎年8月10日に開催されているお祭りである。

鯉江ゼミナールでは毎年参加させていただいており、今年度は15名の学生によってお祭りの開催準備から様々なイベント運営のボランティア活動を行った。



集合写真

(1) とうきび観音まつりの起源

今から200年ほど前の江戸末期に栃尾で厳しい食糧難が起こった。その際、観音寺の住職がトウモロコシを配り作付けを教え広めた。このことを忘れないために聖観音の命日にあたる毎年8月10日に無病息災と家内安全の祈祷を行い、参拝者にトウモロコシを配ることがこのお祭りの由来である。

(2) とうきび観音まつり当日

- ① 開催日：2017年8月10日(木)
- ② 会場：栃尾谷内通り
- ③ 主催：谷内1丁目商栄会、谷内2丁目商友会、とちおにぎわい委員会、栃尾商工会
- ④ 参加店名：尾張屋茶舗、いろは肉店、ブティックにれ、扇長、広野茶店、山甲(本店)
- ⑤ 依頼元：広野茶店(日本茶の駅)
- ⑥ 長岡大学参加者

鯉江ゼミ	氏名
4年生	池田諒馬、片桐湧太、木島俊久、小松綾乃、須田滉介、中島なつ美 中曽根湧、薙澤雄樹、山崎隼斗、横田百合江、鷺尾創太
3年生	加藤茉那、新保聡、鈴木絵莉香
2年生	山城時生

⑦ スケジュール

- 14:00 おやすみ処前に集合
よってげ場から机、椅子、テントを各イベントの場所へ配置
責任者の指示で各イベントの準備を始める
- 15:00 谷内通りを通行止めにする
- 17:00 開催
- 20:30 終了、後片付け、反省会

⑧ イベントの役割

イ ベ ン ト	担 当 者
味のテント村	薙澤雄樹、横田百合江、加藤茉那、鈴木絵莉香
1円ゆらゆらゲーム	池田諒馬、小松綾乃
スーパーボールすくい	山崎隼斗、新保聡
日用品	木島俊久
バルンアート	中島なつ美
無料抽選会	中曾根湧、薙澤雄樹
輪投げ(1丁目)	須田滉介、鷺尾創太
輪投げ(2丁目)	片桐湧太、山城時生

4.2.2 主なイベント概要

とうきび観音まつりのイベント内容は以下の通りである。

(1) 味のテント村

かき氷、玉こんにゃく、フライドポテト、冷やしパイナップル、焼き鳥、ビールの販売を行う飲食が可能なブースである。玉こんにゃくと冷やしパイナップルを割り箸に刺したり、猛暑の中でポテトを揚げたり、かき氷を作った。

子ども連れの親子が多く、ほぼ列が途切れることがなかった。

(2) 1円玉ゆらゆらゲーム

水の入った水槽の中に器が3つ設置されている。その水の上から器にめがけて1円玉をゆっくり入れ、ゆらゆらと落ちる1円玉を見事器に入れることができたなら景品を貰うことができるゲームである。1回のゲームに100円または事前に商店街で500円分の買い物をすると貰える引換券5枚を要する。始めは1等・2等・3等と景品を分けていたが、お客様が多かったためすぐに良い景品がなくなってしまった。そのため、後半は1等に入ったら景品を2つ、それ以外には1つ差し上げることになった。

親子のお客様がとても多く賑やかだった。



1円玉ゆらゆらゲームの様子

(3) スーパーボールすくい

金魚すくいと同じ要領でポイを使い大小様々なスーパーボールを小さめのお椀にすくい入れ、お椀いっぱいになるまで遊べるゲームである。100円または引換券5枚で1回遊ぶことができる。成功しなかった子には、スーパーボールを2、3個詰めた袋を渡した。

お祭が始まると同時にたくさんの子どもたちが集まり約1時間で完売した。

(4) 日用品

今年から初めて行うイベントである。引換券でマヨネーズやケチャップ、サランラップやカップ麺の日用品1つと交換ができ、引換券を持っていれば何回でも交換することができる。

大人向けのイベントだったがお祭に参加した大人が少なかったため他のイベントよりも人気がなかった。子どもにはカップ麺が人気であった。



日用品販売の様子

(5) バルンアート

よくイベントなどで使用される普通サイズの風船を膨らませ、それに色とりどりの油性ペンで様々なキャラクターのイラストを描いたものを幼い子どもを中心に配付を行った。さらに、長い風船を膨らませて捻りを加え、犬やネズミ、剣などの形に変形させたものを創り配布を行った。

子ども連れの親子が多く有名なキャラクターのイラストを風船に描いてあげるととても喜ばれた。

(6) 無料抽選会

抽選会は2回行われた。第1回目は、お祭のチラシにある抽選券で1回くじを引くことができるイベントである。くじにはハズレがなく、一番良い景品は折り畳み式自転車があり、他にはおもちゃ、お菓子、ジュースなどがあつた。さらに、この抽選会に参加した方へ番号が振られた第2回目の抽選券を第1回目のくじを引いたときの数に応じて渡した。第2回目は、スタッフが番号を読み上げ抽選券に書いてある同じ番号の券を持っている方に景品が当たるイベントである。その景品の1等は毎年恒例の3DSであり他にも第1回目よりもグレードアップしたおもちゃがあつた。

開始前から長蛇の列ができ、子どもからお年寄りまでたくさんの方が参加し盛り上がった。



無料抽選会の様子

(7) 輪投げ(1丁目)

抽選券か現金で平台にお菓子やおもちゃが設置してあり、それらに向かって輪を投げるゲームである。その輪の範囲内に置いてある景品を貰うことができる。失敗してしまった子には参加賞としてお菓子を渡した。

最初から最後まで列が途切れることがなく老若男女を問わず多くの方が参加した人気のゲームである。

(8) 輪投げ(2丁目)

輪投げ(1丁目)と同様に行ったがこちらは1回の投げに1つの景品を渡していた。よって、輪が複数の景品の上に落ちた際には投げた人に好きな方を選んで貰った。しかし後半になるとおまけで2つ渡した。

こちら子どもたちが多かったが大人の方も参加していた。最初から最後まで列が途切れることがなく、子どもたちの中には何回も挑戦しに来る子もいた。

4.2.3 参加目的

栃尾まちの駅日本茶の駅である広野茶店の広野さんからお祭りで商店街を盛り上げ、地域活性化を図るために協力してほしいという依頼を受け参加した。その目的は、お祭りに運営側から盛り上げ地域を活性化させることと、お祭りを通して栃尾の方々と交流することにより学生の社会人基礎力の向上を図るためである。

4.2.4 まとめ

今年度のとうきび観音まつりは前日に台風が直撃し中止になるかと思われたが、台風は去り猛暑となりお祭り日和となった。準備から後片付けまで行い、その後の反省会にも参加した。移動は車を所持している学生にお願いをした。今回、初めて参加する学生が多く栃尾の方々と助け合いながら無事に行うことができた。活動する中で子ども達の笑顔やお客様が楽しんでいる姿を見ているとこちらも嬉しくなり楽しく行うことができた。そのことから、自分自身も楽しみながら活動することで周りも楽しませることができると改めて認識した。このように、様々なイベント運営に携わることでお祭りを盛り上げ、地域活性化を行った。さらに、学生達の主体性やコミュニケーション能力などの社会人基礎力の向上が図れた。

今年度はお祭りに貢献するだけで活動が終わってしまったが、来年度以降はまちの駅の認知度を高める活動を行っていく必要がある。そのためにはボランティア活動を行うだけでなく、まちの駅の活動について紹介できる場を設けていただく必要がある。それから、まちの駅のパネルを縮小したチラシを作成し、配布や各まちの駅に置いていただくことも考えている。なぜなら、まちの駅を訪れた方に栃尾の地域だけでなく他の地域のまちの駅についても知っていただけることができると考えるからである。

来年度もこの活動に参加し、地域活性化に貢献しながら社会人基礎力を向上させて貰いたい。



味のテント村の様子



スーパーボールすくいの様子



バルンアートの様子



輪投げの様子



輪投げの様子



4.3 「今町まちなかマルシェ 2017」への参加

学生は、フードコーナー、抽選会、スタンプラリーガラポン抽選・景品交換の運営ボランティアを行った。

(1) 今町まちなかマルシェ 2017 当日

- ①日時：10月1日（日）
- ②場所：今町商店街大通り
- ③依頼先：泊屋菓子舗 まちの駅（お菓子の駅）
- ④長岡大学参加者

	氏名
鯉江ゼミ	池田諒馬、江口枝里子、片桐湧太、木島俊久、中曽根湧、鷺尾創太 加藤茉那、新保聡、山城時生
本学学生	大島日和、高橋宏輔

(2) 全体を通しての感想

- ・多くのお客様が来られたので待たせない様に対応することが大変だった。
- ・子供からご年配の方まで、多くの世代と交流することができたことが良かった。
- ・学生はそれぞれが積極的に活動しつつお客様と共にお祭りを楽しむことができた。

(3) 各担当場所での感想

抽選会では、抽選券を数えガラポンを回していただき当たった景品を渡すといった仕事を手伝いました。多くのお客様が来られたことに加え1人のお客様が持ってこられる抽選券も多く対応するのが大変でしたが、ゼミ生で協力することで楽しく活動することが出来ました。

スタンプラリー抽選会では、スタンプを集めてこられた方にガラポンを回していただき景品を交換しました。スタンプラリーガラポン抽選会を知らない方に対する説明はとても難しく戸惑うことも多かったのですが紙などを見せながら説明するなど工夫することによって分かりやすく相手に伝えることができました。そして、その方が全てのスタンプを集めて戻って来てくれることがとても嬉しかったです。

フードコーナーでは、フレンドのイタリアンと餃子などの販売を手伝いました。昨年よりも在庫を増やして販売したそうですがお昼には売り切れてしまう程、大盛況でした。購入された方々の笑顔を見ることができ、とてもやりがいを感じられる経験でした。

(1) ハロウィンみつけ・見附マルシェ当日

- ①日時：平成 29 年 10 月 21 日(土)
- ②会場：メイン会場…見附市中央公民館
周辺エリア…見附市本町中央・本町・旧新町・宮前商店街
- ③主催：まちなか東コミュニティ、まちなか盛り上げ部会
- ④長岡大学参加者

鯉江ゼミ	氏 名
4 年生	江口枝里子、片桐湧太、木島俊久、小松綾乃 中曽根湧、 薙澤雄樹、山崎隼斗、横田百合江
3 年生	加藤茉那、新保聡
2 年生	山城時生

⑤当日スケジュール

- 11:00 開催挨拶
- 11:00～16:00 見附マルシェ
- 12:30～13:00 じゃんけん大会
- 13:00～13:45 仮装コンテスト
- 14:00～16:00 仮装パレード
- 16:00 仮装コンテスト表彰式
- 16:30 イベント終了

4.4.2 主なイベント内容

以下、ハロウィンみつけ・見附マルシェのイベント内容である。

(1) じゃんけん大会

見附市中央公民館大ホールで開催され、子どもから大人まで参加できるイベントである。2列の列を作り、向かい合ったペアでじゃんけんをして勝敗を決める。勝ち抜いた上位3位までに豪華なプレゼントが用意された。

(2) 仮装コンテスト

子どもから大人まで自分の好きな仮装をして、中央公民館大ホールのステージ上にてアピールポイントを含めたパフォーマンスを行った。入賞者には豪華なプレゼントが用意された。

イベントに参加した学生全員もこの仮装コンテストに参加した。

(3) 仮装パレード

仮装をした子どもたちが、イベントに協力する商店街の各店に向かい、「トリック・オア・トリート」の言葉で各協力店からお菓子の配布を行ってもらった。それに加え、仮装パレード参加者の中から優れた仮装をしている人を学生たちが選び、手作りのメダルの配布をした。メダルをもらった参加者は、仮装コンテストの表彰式と一緒に表彰を行った。

(4) 見附マルシェ

ハンドメイド部門と飲食部門があり、それぞれ中央公民館の中ホールと駐車場で開催された。ハンドメイド部門では、手作りの雑貨や衣服、アクセサリが販売された。また、メイクシールやタトゥーシールなどが体験できるブースも設置された。

飲食部門では、お好み焼きやタコせん、メロンパンやハロウィン仕様のクレープなどの様々なキッチンカーが設置された。食べることのできるスペースも設けられ、多くの来場者が利用していた。

4.4.3 まとめ

今年度は当日のボランティアとしての参加や、昨年度とメイン会場や運営方法など異なる点が様々あり戸惑う場面も多々あった。指示されて動くだけでなく、学生一人一人が自分の出来ることを進んで行動し、学生同士でフォローし合うなど臨機応変に対応していた。

またイベントが始まる前に、会場周辺地域でイベント内容が書かれたチラシの配布や、仮装コンテストに参加するなど、イベントを盛り上げることによって地域活性化に繋げることが出来た。今回の仮装コンテストは急遽の参加だったため、来年また参加した際にはしっかりと準備を行って参加していきたい。

昨年度とは異なり当日だけの参加だったため、物足りなさを感じる学生もいたが、積極的にイベントに関わり、地域の盛り上げに努めた。



準備の様子



じゃんけん大会



仮装コンテスト、表彰式



見附マルシェ



キッチンカー

4.5 もみじ園でのマップ配布

4.5.1 マップ配布 1 回目

①開催日：平成 29 年 11 月 5 日（日）

②参加者

鯉江ゼミ	氏名
4 年	片桐湧太・須田滉介
3 年	加藤茉那・新保聡・鈴木絵莉香

③概要

この日は「長岡大学フォーラム」の開催に合わせ、鯉江ゼミナールでも越路観光マップの第 1 回プレスリリースを行った。巴ヶ丘山荘にて「旧越路町の偉人達」という題で松本先生が講演を行った他、紅葉シーズン限定で「もみじ茶屋」が開かれていることもあり、紅葉狩りの人でいっぱいだった。また、見事な快晴で大変な行楽日和であった。

現地集合ということで「もみじ茶屋」で集まった。「もみじ茶屋」は期間限定の仮設コンテナハウスで、特産品等の販売や休憩所を設置しているところである。お昼時ということもあり、マップ配布前に、「手作り漬物の駅」の内藤様に汁物をふるまっていた。

はじめに誰がどこで配るか等の簡単な打ち合わせを巴ヶ丘山荘で行った。その後各自で持ち場に分かれ、マップを配布した。観光客が多かったため、早い段階で予定数のマップを配り終えることができた。

④フィードバック

マップを配った際に、渡した人から様々な反応を得ることができた。どのように受け取っていただけたかをまとめていく。

マップを配る際の渡し方はメンバーそれぞれであった。私が配る際はなるべく多くの人に受け取ってもらいたかったため、相手にあまり時間を取らせないよう簡単な説明で渡した。受け取ってくれない人も少なからずいるだろうと心配していたが、大半の方が好意的に受け取っていただいた。その中でも、こちらから会話を試みた人や詳細な説明を求める人から情報を得ることができた。

もみじ園に来られる方は観光客が多く、越路以外の人が多かったように思う。私の体感では8割程が越路以外の観光客であったように思うが、他のマップ配布メンバーによっては5,6割が地域外だという意見もあった。

年代は、60代以上の高齢者が半数ぐらいであったが、その他は幅広い世代の方が来ていたように思う。

受け取ってくださった方からは「手書きなんだ。すごいね」というお褒めの言葉や、「ありがとうございます」と感謝してくださる方もおり、好評だった。家族連れやグループなど、1団体に1枚渡していたが、個人でもほしいという方がいたり、「今はいないんだけどもう一人長岡から来るから貰っておきたい」という方もおり好評ぶりが伺える。また、「見やすい」ということで手にとってすぐにマップを開いて隅々まで目を通してくださる方もおり、マップの完成度の高さも推し量ることができた。内藤様もおっしゃっていたように、渡しても中身を見てもらえなければ意味が無いのでこの点についてはクリアできた。

4.5.2 マップ配布 2回目

①開催日：平成29年11月11日（土）

②参加者

鯉江ゼミ	氏名
4年	木島俊久 小松綾乃 中島なつ美 中曽根湧 山崎隼斗
3年	王魏 ジャンガルサイハン・ビャンバトブシン 李文秀

③概要

2回目はあいにくの天候で、傘で片手が塞がっている状況での活動となった。強い雨が降っていたため、ほとんどの観光客がもみじの茶屋や屋根のある休憩所で団欒していた。そのため最初の方はもみじ園の入り口付近でマップの配布を行った。

活動は午前中から行っていたが、お昼に近づくとつれ若干ではあるが天候も回復していき、各々で分散して活動を行い、お昼頃には無事予定数のマップを配布することができた。

④フィードバック

雨が降っていたためにほとんどの方が傘を差していたが、学生が声を掛けると温かい反応をいただいた。中にはその場でマップの細部まで読み込んでくださる方や、マップの出来を見てお褒めの言葉をくださる方もおり、非常に嬉しかった。

また、越路地域内外から多くの観光客が来ており、ご年配の方が多く中で、小さいお子さんを連れた家族連れや県外からの観光ツアー客など幅広い観光客が訪れていた。

1回目と違い、2回目は午前中からのマップ配布を行ったがお昼近くになると天候が回復していき、傘を持たずに来られた方もいたので、活動時間を午後からにすればよりスムーズに配布活動を行えたのではないかという反省点もあった。しかし、全体を通して学生が自分たちで作成したマップを実際に配布するという貴重な体験をできたことは大きな経験になった。



当日の様子

年代	・ 60代以上が半数以上 - その他は幅広い年代
住んでいる地域	・ 越路地域以外が6割以上
特性	・ 60代以上の夫婦 ・ 親子連れ ・ 写真家、若者、団体客、…
感想・反応	「手書きなんてすごいね」 「ありがとう」 「話のネタになるからもらっていくわ」 「良くできているね」 「今はいないんだけどもう一人長岡から来るから貰っておきたい」

4.5.3 所見

実際にマップを配布してみて、すんなりと受け取ってもらえる印象だった。この点では越路の観光マップが受け入れられたように思う。この状況を鑑み、各まちの駅でこのマップを設置しておくことは地域交流に繋がると考える。しかし、まちの駅自体の認知度が低いためすぐに効果が出るとは考えにくい。そのため、鯉江ゼミナールとして、まちの駅の認知度を上げることと、そのための活性化をしていく必要がある。また、今回はマップをただ配布するのみとなり、その後に生かせる定量的データを取ることができなかった。今後は実地での活動においてアンケートを取るなど、効果的にフィードバックを得る必要があると感じた。

今回の活動から、発信拠点としてのまちの駅の重要性が感じられた。その基盤として発展していくことを願う。

5. ウェブページの更新

今年度は、トップページの更新と、新しく作成したまちの駅紹介パネルの追加、およびパネルの更新を行った。加えて、今年度作成した越路マップを追加した。このページには、長岡大学のホームページにリンクが繋がれているので、ホームページにある「まちの駅 長岡大学」内の「新潟まちの駅紹介」から飛ぶことができる。

(1) 全体像

デザインは昨年度のものを使用した。

(2) 各項目説明

<まちの駅とは>

まちの駅の概要を紹介すると共に、より詳しくまちの駅の情報を得られる「全国まちの駅連絡協議会」の公式サイト「まちの駅」へのリンク機能が付いている。

<県内のまちの駅リンク>

新潟県内でまちの駅ネットワークを形成している「越後長岡まちの駅ネットワーク」「まちの駅ネットワークみつけ HP」へのリンク機能が付いている。

<これまでの活動概要>

各年度活動概要に昨年度の鯉江ゼミナールの長岡大学地域活性化プログラム報告書ページへのリンク機能を追加した。

<まちの駅一覧>

今までに作成したパネルに加え、今年度作成したまちの駅のパネルの追加と更新を行った。ここでは計 130 駅の新潟県内のまちの駅のパネルを紹介している。

地域ごとの検索ボタンから下にあるまちの駅のリストに飛べるようになっている。

今年度新たに追加・更新したまちの駅が一目でわかるように、それらには「更新」「NEW」と付けた。

<越路マップ>

今年度、鯉江ゼミナールが取り組んだ『「まちの駅」から越路地域の魅力を発信』の活動の一環で越路地域を紹介するマップを作成した。そのマップをこのウェブページからも見られるようにした。

6. とりまとめ

以下、今年度の活動・研究の結果明らかになった点をまとめ、今後の課題を整理する。今年度の活動・研究のテーマは『「まちの駅」の魅力発信と地域活性化への貢献』である。

株式会社ユアテックにて行われた安全大会への参加では、昨年度および今年度の活動紹介とモンゴルの紹介を合わせて行った。今まで経験のない 60 分間の講演であったため、講演内容を考える上で、とても苦勞した。しかし、この大会への参加を通して、留学生との交流やまちの駅の認知度の向上、学生の発表の経験を積むことができ、大きな成果を上げることができた。来年度もこのような大会に参加し、まちの駅の認知度の向上を図っていきたい。

まちの駅の魅力発信については、今年度新たに追加されたまちの駅のパネル作成および既存のまちの駅のパネルの更新を行った。加えて、越路のマップ作りのため越路地域を中心にヒアリング活動を行った。その成果を、平成 29 年度の悠久祭でパネル展示という形で実施した。

ヒアリング調査は、まず新潟県内のまちの駅をリストアップするところから始まった。その後、越路地域のまちの駅並びに三条ベースにパネル更新に関する意向を確認する文書をお送りし、新駅と併せて、ヒアリング調査を希望する駅にヒアリング調査を実施した。この調査では「まちの駅を始めたきっかけ」や「そのまちの駅について」「その地域のオススメスポット」などをお伺いした。

パネルでは、駅からいただいた文書や資料、ヒアリング調査時の内容を基に作成した。完成したパネルはメールや、直接お渡しし確認をしていただいた。修正を希望された駅に関しては、メールで修正点を確認し修正後、あらためてお送りした。

大学の悠久祭では、例年通りパネル展を開催した。今年度は、前年までに作成したパネルと新設・更新した駅を合わせて 130 駅を紹介した。今年は 2 日間で、300 名の方たちに来場していただいた。学生にまちの駅について質問をしてくれる方が多くいらっやって、留学生も積極的に各まちの駅についてお話をすることができた。そして今年度は昨年度に引き続き、模擬店を出店した。中華料理の水餃子を販売し、ゼミ生全員で協力しあうことができて楽しかった。2 日目は悪天候で大変だったが、利益をあげることができた。

「まちの駅や地域ボランティア活動への参加」では、まちの駅を通じて「まちの駅&どま市春の物産フェア」、「とうきび観音まつり」、「今町まちなかマルシェ」、「ハロウィンみつけ・見附マルシェ」、「もみじ園での越路マップ配布」に参加した。ボランティア活動を通し地域の人々と交流ができ学生自身もイベントを楽しむことができた。それによって、他の活動に取り組む意欲が向上した。次年度も今年度の反省を活かし地域活性化につながるように積極的に参加したい。

ホームページの更新では、パネルを紹介しているホームページの内容と今年度変更した更新点について述べた。

ヒアリング調査やボランティア活動に参加することで、留学生にとっては大きな経験を得ることができたとともに、次年度以降の活動の原動力になったと思う。また、いろいろな場に参加したことにより、昨年度よりもまちの駅の理解が深まり、まちの駅の方々との繋がりが強くなったのではないかと思う。今後もまちの駅に積極的に関わっていき、学生一人ひとりがまちの駅を広めていく「ファン」になっていくことが理想である。

今後の課題・反省では、しっかりと計画を立て無理のないスケジュール管理を徹底することがあげられる。今年度はゼミ生の人数が 25 名と非常に多かった反面、来年度は人数が大幅に減少する。日本人学生よりも留学生の人数が多くなるので、今年度達成することのできた日本人学生と留学生の協力を次年度以降も継続して行っていきたい。例年述べているが、在校生の皆さんには、もっと自発的に自らのまちの駅や「まち」のことを事前によく調べることによって、地域の新たな魅力発見に繋げてもらいたい。来年度、まちの駅長さんと今まで以上により良い関係性を築き、充実した活動ができることを期待している。今年度も昨年度に続き伺うことの出来なかった駅があった。こちらの駅は、ヒアリングを行っている時期が忙しい時期と重なっていたためヒアリングを行うことができなかった。来年度は、そういった駅に対してはヒアリングに実施する時期をずらすなどをして伺う。加えて新駅や依頼があった駅には必ず行くことが必須である。また、活動を通して多くのことを吸収し、まちの駅を広めるため、より一層の努力をしていきたい。

今後の活動に対する提案

これまで鯉江ゼミナールでは、新潟県内のまちの駅のヒアリング活動を行い、その駅の紹介パネルを作成してきた。そして、パネルを展示することでまちの駅の認知度の向上を図ってきた。しかし、まだまちの駅を知らない方も多く、多くの方に認知されるまでには至っていないと感じている。そのため、まちの駅をもっと多くの方に知ってもらうため、今後の鯉江ゼミナールの活動に対しての提案を行う。

私達が挙げる提案は以下の 2 点である。

★まちの駅を紹介する発表の場を設ける

もっと多くの方にまちの駅について知ってもらうため、まちの駅を紹介する場をこれまで以上に増やしていきたいと考える。今年度は、まちなかキャンパス長岡のイベントや株式会社ユアテックにて発表を行ったが、今後は各ボランティア（詳しくは 4 章を参照）に参加する際、発表の場を頂けないかお願いしていきたい。

★パネルの活用について考える

今まで、各まちの駅のパネルは、悠久祭や見附市のどま市のイベント、長岡市役所、まちなかキャンパス長岡で展示する程度であった。パネルをより有効に活用するために、新たな活用方法についていくつか提案を行う。

例として以下の 4 点がある。

① 各まちの駅にその駅のパネルを展示してもらう

各まちの駅のパネルは毎年その駅にお送りしている。これまでは、積極的に学生側からパネルの展示をお願いすることはなかったが、今後は各駅に対してパネルを展示してもらうようお願いしていきたい。

② 小型にしたパネルを配布用として配る

各まちの駅のパネルを縮小し、配布用として各まちの駅に置いてもらう。

③ 展示の場を増やす

前述の通り、まちの駅のパネルを展示する機会はあまり多くなく、ほとんど大学に置いている状態であった。パネルは作成することが目的ではなく、それを見てまちの駅を知ってもらうことが目的である。そのため、多くの方に見てもらうため、パネルを県内の各場所やイベントへ積極的に貸し出していきたい。

また、展示する際に、その地域のパネルだけでなく他の地域のパネルを置くことで、他地域の情報もわかり面白いのではないかと思う。

④ 地元誌などで掲載してもらう

新潟県内の地元誌（komachi、ナジラビなど）に、まちの駅の紹介や各まちの駅パネルを掲載してもらえようをお願いしていきたい。地元誌は、県内各所にあり多くの方が目に見ていると思う。そのため、そちらに掲載されることで、より多くの方にまちの駅について知ってもらえ認知度は上がると考える。

これらの提案以外にも、まちの駅へのヒアリング活動とパネルの更新・作成、ボランティア活動など今まで行ってきた活動については、引き続き行っていきたい。

<謝 辞>

最後に、お忙しい中、私たちの取組を全面的に応援してくださった「長岡市市民協働推進部市民協働課」の岩嶋様、「全国まちの駅連絡協議会」の中川様を始め、ヒアリング調査、パネル作成にご協力いただきました地域の皆様、誠にありがとうございました。

また、日頃の活動のサポートや報告書の作成などでいろいろとご協力していただいた「地域連携研究センター」の職員の方々にもお礼を申し上げます。ありがとうございました。

(以上)

<参考文献>

文献1：長岡大学『平成28年度 学生による地域活性化プログラム活動報告書』平成29年3月

文献2：全国まちの駅連絡協議会『第20回まちの駅全国大会開催記念 まちの駅足かけ20年のあゆみ』平成29年9月

文献3：まちなかキャンパス長岡『まちなかキャンパス長岡 平成29年度講座一覧』平成29年4月

文献4：まちなかキャンパス長岡 こどもカフェ 「まちの駅ってどんなところ？」アンケート集計結果 平成29年7月

文献5：全国まちの駅連絡協議会 まちの駅 (<http://www.machinoeki.com/>) 平成29年12月閲覧

文献6：国土交通省 「道路：道の駅案内－国土交通省」国土交通省 (<http://www.mlit.go.jp/road/Michi-no-Eki/history.html>) 平成30年1月閲覧

長岡大学 学生による地域活性化プログラム 各プロジェクト報告書

1. 十分杯で長岡を盛り上げよう！
—羽ばたけ長岡の宝 十分杯！—
権 五景（樂九）ゼミナール（1）
2. 長岡の隠れた地域資源を若人に広めよう！
栗井英大ゼミナール
3. 「まちの駅」をフィールドとした活動等による地域活性化への貢献
鯉江康正ゼミナール（1）
4. 企業ホームページの改善提案とデモサイトの制作
村山光博ゼミナール
5. グラスルーツグローバリゼーション ～草の根・地域からの人類一体化の推進～
広田秀樹ゼミナール
6. 酒粕で長岡を盛り上げよう！
—酒粕商品化、権ゼミの試練—
権 五景（樂九）ゼミナール（2）
7. 地元企業の働き方を知る
鈴木章浩ゼミナール
8. 「まちの駅」から越路地域の魅力を発信
鯉江康正 ゼミナール（2）

平成29年度 学生による地域活性化プログラム 鯉江康正ゼミナール活動報告書

【発行日】 平成30年3月19日
【発行人】 村山 光博
【発行】 長岡大学 地域活性化プログラム推進室
〒940-0828 新潟県長岡市御山町80-8
TEL 0258-39-1600（代）
FAX 0258-39-9566
<http://www.nagaokauniv.ac.jp/>